

論 文 内 容 の 要 旨

氏 名	松原 純啓	専 攻 名	情報工学専攻	学籍番号	03TA598C
論文題目	IT技術者育成に向けた資格取得支援用 e-learning systemの開発				
<p>近年多種多様な資格試験が存在している。その中でも、IT、PC系の資格試験は大変多く、国家資格や様々なベンダが作成したWEB型の資格試験がある。たとえば、ベンダ資格には、Microsoft社やCisco社が作成しているMCPやCCNAといった資格がある。これらは高額でかつ数日間まるまる授業をきくという研修を受けることが前提で取得できるようなもので、独学での取得は難しいという現状がある。そこで、研修にかわる、資格取得用 e-learning systemがあれば、金銭面、時間面の負担をなくし、多くの資格を目指す人達に対し貢献できるのではないかと考えた。対象とする資格はCISCO社のCCNA資格とした。理由として、筆者が会社でネットワーク技術者として働いており上位資格であるCCNPを取得していることから、資格に対する知識、ノウハウを持っているためである。</p> <p>そこで、CCNA資格の特徴を洗いだした、結果、3点の課題が浮かびあがった。第1にテスト問題を一人で作成した場合、作成稼働や誤りが出てくること、第2に日々更新されるテスト問題にどう対応するのかということ、第3に独学のe-learningと講師を用いた研修の差をどのように埋めるかということがある。この3点に対し、対応方法を検討したところ課題1及び2については、問題を一人ではなく複数で作成する方法を検討した。実際には、社内では毎月数人の人がCCNA資格を受験する。この人たちにも協力していただき、試験にでたテスト問題を掲示板に載せてもらう。そこから、テスト問題作成者がテスト問題を取得し、傾向をつかみ、新たなテスト問題をアレンジする。このとき、類似問題や応用問題の作成を行う。ここで新しく合議システム（問題作成ツール）というものを考えた。これは、個々の作成者により作られたテスト問題に対し、複数の人が妥当と判断しなければテスト問題として採用されない方法である。会社等で企画を提案する際、必ず上司数名の了承が必要となる。全員がOKをだせば提案を受理、一人でもNGであれば提案を破棄といった形で提案内容に対し複数の目で確認し、本当に必要な提案だけを実施するように取り計らっている。ここからヒントを得て、この仕組みをシステム化することでテスト問題自体の誤りを削減することを考えた。課題3にいたっては、ただだんにE-learningといっても単純にテキストだけおいておくのでは、研修との差分は埋められない。そこで、コミュニケーションが行える場の提供を行うこととした。また、研修では講師がおり、どんな質問にも回答をしてもらえる。同じような環境とするため、メンター制を導入することで対応する。実際には、社内でCCNA資格を取得している人にメンターになっていただき、利用者からの質問回答を行う。単純に質問回答を行うだけでも、受験者の孤独間や不安感を解消させることができると思われる。上記内容を考慮しシステムを構築した。</p> <p>構築したシステムについて、試験的に社内で利用し、モニタ調査を行った結果、良い結果が得られている。今後は調査によって得られた課題等を解決し、社内で利用できるよう調整していく。</p>					